

選んでよかった 富士見

～住み続けたいまち・住んでみたいまちづくりに向けて～

今年度、富士見町に寄せられた移住に関する相談は130件を超えています。「リモートワーク」や新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、いま生活拠点を見直す人が増えています。「田舎暮らしは定年後の第2の人生で」という流れは、今や古いものとなりつつあるのかもしれませんが、今回は、富士見町の移住・定住施策についてご紹介します。

● 富士見町の人口減少は緊急の課題

富士見町では、死亡数が出生数を上回る「自然減」に加えて転出超過の状態であり、人口減少は待ったなしの課題となっています。平成30年には、人口が年間で約200人減少する「ピーク」を迎えましたが、その後の移住促進施策等が功を奏し、減少幅はゆるやかになりました。

町の人口を維持するためにも、富士見町を選んでくれる移住者をしっかり受け入れる体制づくりや、Uターンしたくなる「魅力的なまちづくり」が重要となっています。

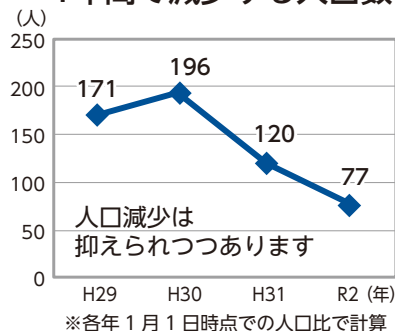
● 移住相談の「ワンストップ窓口」を設置

「二拠点生活」「リモートワーク」「コワーキング」という言葉がよく聞かれるようになりました。町に寄せられる移住に関する問い合わせも、昨年比で約6倍となっており、都会を離れた暮らしへの関心の高さがうかがえます。

移住先を探し、移住することは人生の大きな決断です。富士見町は今年度、移住を考える方のためのワンストップ窓口である【移住・定住推進チーム】を設置し、ベテラン職員2名によるきめ細やかな支援で、増加する移住相談に応じています。



1年間で減少する人口数



◀◀今年度は多くのメディアに取り上げていただきました

● 移住をサポートする取り組み

お試し住宅「夢想庵」がオープン

令和2年9月、移住希望者の要望に応えるため、築200年の古民家をリフォームした移住お試し住宅「夢想庵」をオープンしました。

木造平屋の広々とした空間や、土間にある囲炉裏が昔ながらの暮らしを思い起こさせます。

住宅内には農具をはじめとした古い道具も展示されているほか、居間には薪ストーブが置かれており、古民家の良さを継承しつつ暮らしやすさにもこだわった造りになっています。



JR富士見駅舎内に移住相談室を設置

令和3年1月、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）長野支社と、地方創生に向けた相互連携協定を結びました。

連携第1弾として、町の機能である移住・定住相談室をJR富士見駅舎内に開設します。

駅は全国と町を結ぶ主要な場所であり、人の集まる場所、町民に親しまれ続けてきた、町にはなくてはならない場所です。JR東日本とも連携し、魅力ある駅づくりと町の活性化を図ります。



富士見町には住む人に優しい 制度が充実しています

町の施策の中から、移住・定住のサポートとなる制度の一部を紹介します。

住宅支援

●新築住宅補助金

移住・定住する目的で住宅を新築、または新築住宅を購入した方に、費用の一部を補助します。(上限100万円)

問 総務課 企画統計係 ☎62-9332

●空き家改修費補助金

町内の空き家を、居住を目的として改修する方に補助金(上限100万円)を交付します。

問 総務課 企画統計係 ☎62-9332

就業支援

●就業・創業移住支援

東京圏、愛知県、大阪府から移住し、長野県が運営する求人募集サイトに応募して就業した方に、移住支援金として最大100万円を支給します。

問 産業課 商工観光係 ☎62-9342

●テレワーク推進補助金

テレワークの推進に寄与する形で、森のオフィスを日常的に利用する移住者に、月額83,000円を補助します。

問 総務課 企画統計係 ☎62-9332

子育て・医療支援

●子どもの医療費を窓口無料化※

高校卒業まで保険診療の医療費を助成しています。※一部負担金あり

●充実の福祉体制

富士見高原病院を中心に、医療機関や福祉センター、デイサービスが相互に連携し、安心して暮らせる体制が整っています。

※各支援には諸条件があります。詳細はお問い合わせいただくか、町ホームページをご覧ください。

問 総務課 企画統計係 ☎62-9332



移住者インタビュー

鈴木 慶さん一家
(信濃境)

令和元年8月、東京都から富士見町へ移住。Apple認定エンジニアとして、Apple製品からデジタル機器、保守・サポートだけでなく、リモートワーク導入のための《なんでもMac相談室》を実施。出張訪問にも対応している。

豊かな自然で子育てを

「家族と過ごすのであれば、東京以外で自然が多いところがいいと思ったんです。」と話してくれた鈴木さん。移住のきっかけは子どもが生まれ、これからの子育てを考えたこと。最初は「二拠点生活」を想定していましたが、家族の同意もあり思い切って一家で移住という形になりました。

移住先を選ぶにあたり、鈴木さんが活用したのは長野県が主催する「おためしナガノ」。移住希望者の引越し費用等を補助する支援制度です。「『おためしで住んでいい』というきっかけと、東京とも適度に近く、自然があり、今の仕事を続けられ

る場所を探したときに、富士見町が候補に挙がりました。町の『テレワーク推進補助金』も活用させてもらったことで、移住に関するハードルはぐっと下がりました」

仲間がいる心強さ

移住者が最も苦慮するのは、移住先での人間関係づくりともいわれています。

鈴木さんは「森のオフィスのようなオープンな施設があつて、同じような人と話せるのは心強いと思った」と、移住の決め手が「富士見 森のオフィス」だったと教えてくれました。厳しい富士見町の冬の過ごし方も、オフィス利用者からアドバイスしてもらったそうです。「森の

オフィスでつながって仕事をした方からお裾分けをいただいたり、仕事面でも生活面でも交流が広がります。」
また、「出張訪問で教えてもらう《地図に載っていない地域のこと》が知れるのがとても楽しい」と移住後の生活について笑顔で話してくれました。

鈴木さんが活用した
県主催の移住支援

おためし

長野県で1年やってみませんか?

ナガノ

https://
otameshinagano.com/



「空き家」が 足りません!

移住相談は増える一方なのに対し、ご紹介できる町内の空き家の数が追いついていません。

移住希望者のニーズは、古民家から中古住宅まで様々ですが、なかでも「空き家の賃貸」はとても人気です。

理想とする暮らしや相談内容も十人十色であるため、空き家の賃貸・売買・処分等にお困りの方は、今がチャンスといえます。ぜひご相談ください。